

オブジェクト指向技術 第9回 — オブジェクト指向プログラミング —

立命館大学 情報理工学部
丸山 勝久

maru@cs.ritsumei.ac.jp

講義内容

■ オブジェクト指向プログラミング

- Java
- クラス, メソッド, フィールド
- パッケージとアクセス制御
- インスタンスの生成とアクセス
- 継承, 抽象クラス, インタフェース
- オーバーライド, オーバーロード
- 配列とコレクション
- 例外処理, 入出力処理
- GUIプログラミング
- イベント駆動モデル

Java

- クラスベースオブジェクト指向プログラミング言語
- クラスが必ず必要(クラスを第一級として扱う)
- 特徴
 - C言語やC++に似た構文
 - 仮想マシン上で動作することで
Write Once, Run Anywhere を実現
 - 静的な型付け(static-typed)
 - 基本型の厳密な規定
 - 基本型以外はすべて参照値(ポインタ)渡し
 - GC (garbage collection)を提供することでメモリ管理不要
- Java 20(最新版)と Java 17(長期サポート版)が存在
 - この講義ではJava 11をベースに説明

Java環境の整備

- JDK (Java Development Kit)のインストール
 - <https://www.oracle.com/java/technologies/downloads/>
 - 実行環境JRE (Java Runtime Environment)もインストールされる
- テキストエディタ + コンパイラ で開発・実行する場合
 - Windowsコマンドプロンプトでコンパイルするには、予め環境変数PATHに、コンパイラの実行ファイルのパスを設定する必要がある
 - インストール済みのJavaのバージョンを確認

```
% java -version  
java version "11.0.18" 2023-01-17 LTS  
...
```

JDK 17をインストールしてもよい

プログラムの構成要素

■ 識別子

- クラス, メソッド, 変数などの名前

■ 予約語

- 識別子として使用不可

■ 演算子

- `+ - * / % = == < <= () [] && || . new` 等

■ 文と式

- 選択 (if/else/switch), 繰り返し (while/for/do), return 等
- 条件, メソッド呼出し, フィールドアクセス 等

■ コメントは3種類

- ラインコメント: `//` から行末
- ブロックコメント: `/*` から `*/`
- 文書化コメント: `/**` から `*/`

変数

- 値を格納する入れ物やインスタンスを指す名前
- 使用前に宣言が必要
 - 型を持つ
- スコープ
 - 単純名(名前のみ)で参照可能な範囲
 - インスタンス変数(フィールド)
 - クラス内部
 - メソッドの引数
 - メソッド内部
 - ローカル変数
 - 宣言された位置からそのブロックの終わりまで

データ型(data type)

■ 基本型(primitive type)

■ 整数

- byte (8ビット), short (16ビット),
int (32ビット), long (64ビット)

■ 浮動小数点数

- float (32ビット), double (64ビット)

■ 文字

- char (符号なし16ビット)

■ 真偽(ブーリアン)型

- boolean

■ 参照型(reference type)

- 基本型以外のクラス, 利用者が作成したクラス
- Object (すべての参照型は暗黙的に継承している)
- String (文字列を格納するためのクラス)

リテラル(literal)

■ 整数

- 123 (int型), 123L (long型)

```
int a = 123;
```

■ 浮動小数点数

- 1.23 (double型), 1.23f (float型)

```
double b = 1.23;
```

■ 文字

- 'a', '漢' (char型)

```
char c = 'a';
```

■ ブーリアン型

- true, false (boolean型)

```
boolean b = true;
```

■ 文字列

- "abc" (String型)
- new演算子を省略して生成可能

```
String s = "abc";
```

||

```
s = new String("abc");
```

■ null

- 参照するオブジェクトが存在しないことを意味

```
Object o = null;
```


変数の初期値

- ローカル変数の初期値 → 不定
 - 初期化せずに参照するとコンパイルエラー
- フィールドと配列要素の初期値
 - 基本型
 - 整数(byte, short, int, long) → 0 (それぞれの型の)
 - 浮動小数点数(float, double) → 0.0 (それぞれの型の)
 - 文字(char) → 空文字(¥u0000)
 - 真偽(boolean) → false
 - 参照型 (Stringも) → null
- 定数
 - 宣言にfinal(変更不可)を付ける

```
final int MAX_VALUE = 1024;
```

型エラー(type error)

- 代入文の左辺と右辺は同じデータ型でなければならない
 - ✕ `int x = 3.0;`
 - ✕ `boolean b = 2;`
- 異なるデータ型の値は演算できない
 - ✕ `3 + true`
- 例外
 - 整数は浮動小数点数に格上げされる
 - `double x = 3;`
 - 基本型の値は文字列型と結合されると、文字列型に格上げされる
 - 明示的に変換する場合は、`String.valueOf()`を利用
 - `String s = "ABC" + 3;`
 - `String s = "ABC" + String.valueOf(3);`
 - 参照型の場合は、`toString()`メソッドが利用される

パッケージ

- クラスはパッケージごとにグループ化できる
 - 名前の衝突を回避
 - パッケージ名と同一名のディレクトリの中に、ソースファイルとクラスファイルを置く
- ソースファイルの先頭にパッケージ宣言を記述
 - パッケージを指定しない場合、パッケージなし(デフォルトパッケージ)とみなされる
- 完全修飾名(FQN: fully qualified name)
 - パッケージ名も含めたクラス名
String → **java.lang**.String (FQN)
 - 慣用的に、インターネットのドメイン名を逆順に記述したパッケージ名を使用
cn.edu.dlut.xxx.Clazz ← **異なるクラス** → **cn.edu.dlut.yyy**.Clazz
└──────────┘
パッケージ名

Javaプログラムの実行手順

(1) ソースファイルの作成

```
public class Hello {  
    public static void main(String[] args) {  
        System.out.println("Hello Java");  
    }  
}
```



拡張子は
".java"が一般的

Hello.java

(2) ソースファイルをコンパイルする

```
javac Hello.java
```

Hello.class が生成される



Hello.class

(3) Java実行環境(仮想計算機)で実行する

```
java Hello
```

Hello.class が実行される

Javaプログラムの実行(Hello.java)



Hello.classのプログラムを実行した場合
Hello.javaのmain()メソッドから実行が始まる

Hello.class

```
public class Hello {  
    public static void main(String[] args) {  
        System.out.println("Hello Java");  
    }  
}
```

文字列リテラルは
そのまま出力される

出力結果

Hello Java

コンソール画面に出力するためには,
`System.out.print()` (改行なし)や
`System.out.println()` (改行あり)を利用する

Javaプログラムの実行(Ex1.java)

```
public class Ex1 {  
    public static void main(String[] args) {  
        int a = 123;  
        String s = "DUT";  
  
        System.out.println(a);  
  
        System.out.println(s);  
    }  
}
```

出力結果

```
123  
DUT
```

`System.out.println(a);` ← 変数の値が出力

`System.out.println(s);` ← String型の場合は、
格納されている文字列が
そのまま出力

Javaプログラムの実行(Ex2.java)

出力結果

```
179
abcdef
abc123
abc12356
179abc
```

```
public class Ex2 {
    public static void main(String[] args) {
        int x = 123, y = 56;
        String s = "abc", t = "def";
```

```
        System.out.println(x + y);
```

x+yの計算結果が出力

```
        System.out.println(s + t);
```

文字列同士の加算は結合
"abc" + "def" → "abcdef"

```
        System.out.println(s + x);
```

文字列に格上げされてから結合

"abc" + 123
→ "abc" + "123"
→ "abc123"

```
        System.out.println(s + x + y);
```

```
        System.out.println(x + y + s);
```

s+xが先に計算される

x+yが先に計算される

Javaプログラムの実行(Ex3.java)

```
public class Ex3 {  
    public static void main(String[] args) {  
        int result = sum(2);  
        System.out.println(result);  
        System.out.println(sum(5));  
        System.out.println(sum(-1));  
    }
```

メソッド呼び出し式

```
static int sum(int n) {
```

```
    if (n <= 0) { return 0; }
```

条件文

```
    int sum = 0;
```

```
    while (n > 0) {
```

繰り返し文

```
        sum = sum + n;
```

```
        n--;
```

```
    }
```

```
    return sum;
```

return文

```
}
```

```
}
```

出力結果

3
15
0

クラスの記述

■ クラスの宣言

■ classキーワードを利用する

■ フィールドとメソッドはクラス宣言の中に記述

スマートフォン
名前 価格
名前を取得 価格を設定 価格を取得 価格情報を取得 名前と価格の情報を表示

クラス名

属性

操作

```
class Smartphone {
```

```
// name;
```

```
// price;
```

```
// getName()
```

```
// setPrice()
```

```
// getPrice()
```

```
// getPriceInfo()
```

```
// print()
```

```
}
```

クラス宣言

フィールド宣言

メソッド宣言

フィールドの記述

- フィールドの宣言
 - 型名の後ろにフィールド(変数)の名前を記述
- 初期値を付けることも可能

```
class Smartphone {  
    String name; // 名前を格納  
    int price;   // 価格を格納  
  
    // getName()  
    // setPrice()  
    // getPrice()  
    // getPriceInfo()  
    // print()  
}
```

フィールドの宣言

メソッドの記述

■ メソッドの宣言(定義)

- 戻り値の型名の後ろにメソッドの名前と引数のリストを記述

```
class Smartphone {  
    String name;  
    int price;  
    String getName() { return name; }  
    void setPrice(int p) { price = p; }  
    int getPrice() { return price; }  
    String getPriceInfo() {  
        return getPrice() + "-yen";  
    }  
    void print() { // 名前と価格の情報を表示  
        System.out.println(name + ":" + getPriceInfo());  
    }  
}
```

メソッドの宣言

this と super

■ 特定のオブジェクトやコンストラクタを指し示す

■ this

■ 自クラスのインスタンスを指す

■ this()

■ 自クラスのコンストラクタを呼び出す

■ コンストラクタ先頭でのみ記述可能

■ super ※次回説明

■ 親クラスのメンバを参照する際に利用

■ super() ※次回説明

■ 親クラスのコンストラクタを呼び出す

■ コンストラクタ先頭でのみ記述可能

```
class Clazz {  
    int x;  
    Clazz(int x) {  
        this.x = x;  
    }  
    Clazz() {  
        this(1);  
    }  
    void m() { ... }  
    void n() {  
        this.m();  
    }  
}
```

コンストラクタの記述

■ コンストラクタの宣言(定義)

- インスタンスの生成時に呼び出されるメソッド
- クラスと同じ名前で宣言
 - コンストラクタの宣言を省略すると
引数なしのコンストラクタが自動的に作成される

```
class Smartphone {  
    Smartphone(String name, int p) {  
        this.name = name; // 引数nameの値をフィールドnameに代入  
        price = p;        // 引数pの値をフィールドnameに代入  
    }  
    Smartphone(String name) {  
        this(name, 30000); // 自クラスのコンストラクタを呼び出す  
    }  
    ... (省略)  
}
```

コンストラクタの宣言

import文

■ 他のパッケージ内のクラスを利用する場合

import文を利用

- import + 利用するクラス名(パッケージ名含む)

```
import java.util.ArrayList;
```

- java.langパッケージ内の型名のimportは省略可能

System, String, Object 等

- import文を記述しなくても、コード中に完全修飾名を記述すれば利用可能

- コードが見にくくなるので基本的に避ける

- ワイルドカード文字(*)を使えば、特定のパッケージ内のクラスを明示的なimportなしで利用可能

```
import java.util.*;
```

クラスの宣言と可視性

- 1つのソースファイル内では、
トップレベルのクラス1つしか公開できない
 - 公開するクラスには通常publicを付ける
- ファイル名とトップレベルのクラス名は一致
 - publicでないクラスを記述することも可能
 - publicでない場合でも同一パッケージからは利用可能
 - クラス内部に他のクラスを宣言可能 (内部クラス)

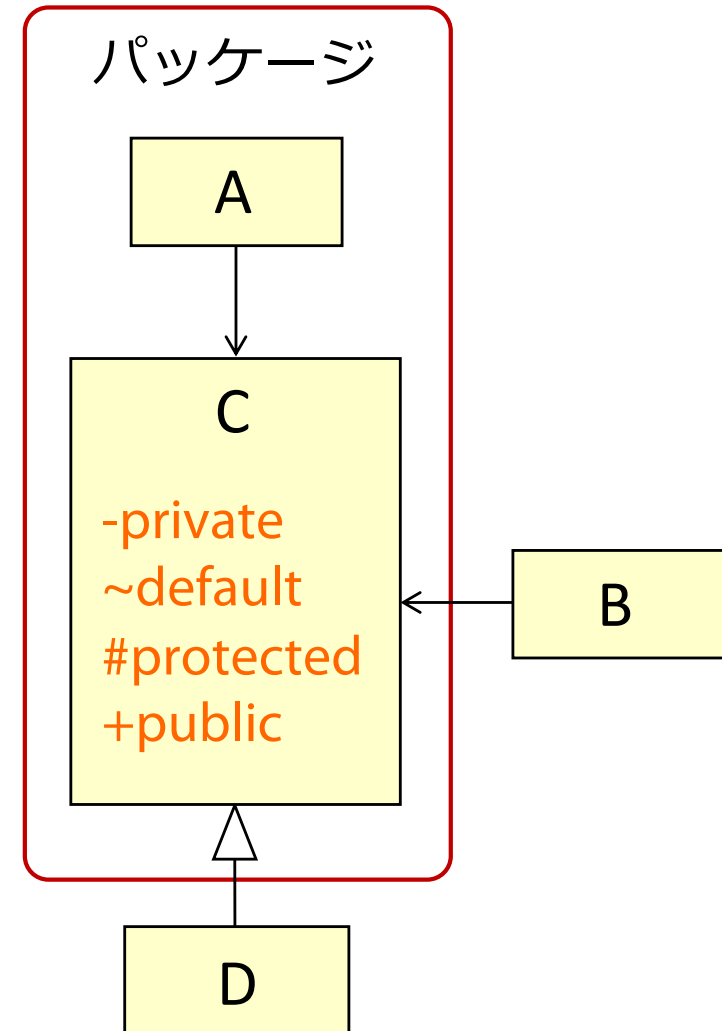
```
public class Student {  
    ...  
}  
classClazz { ... }
```



ファイル名
Student.java

クラスメンバの可視性

- private
 - 外部から参照不可 (C)
- default (何も記述しない)
 - 同一パッケージから参照可 (A, C)
- protected
 - 同一パッケージとサブクラスから参照可 (A, C, D)
- public
 - 外部から参照可 (A, B, C, D)



可視性の設定

■ 標準的なポリシー

- フィールドは基本的にすべてprivate
- getter, setterを用意する
 - getter: フィールドの値を取得するためのメソッド
(通常は get+フィールドの名前 という名前)
 - setter: フィールドに値を設定するためのメソッド
(通常は set+フィールドの名前 という名前)
- コンストラクタで初期値を設定する
- できるだけsetterを作らない
 - 外部から値を変えられないフィールドの方が管理が楽

クラスの完成(可視性の追加)

```
public class Smartphone {  
    private String name;  
    int price;  
  
    public Smartphone(String name, int p) {  
        this.name = name;  
        price = p;  
    }  
    public Smartphone(String name) {  
        this(name, 30000);  
    }  
    public String getName() {  
        return name;  
    }  
}
```

```
    public void setPrice(int p) {  
        price = p;  
    }  
    public int getPrice() {  
        return price;  
    }  
    private String getPriceInfo() {  
        return getPrice() + "-yen";  
    }  
    public void print() {  
        System.out.println(  
            name + ":" + getPriceInfo());  
    }  
}
```

インスタンスの生成

- new演算子を利用
- コンストラクタの呼出し

```
public class Smartphone {  
    private String name;  
    int price;  
  
    public Smartphone(String name, int p) {  
        this.name = name;  
        price = p;  
    }  
    public Smartphone(String name) {  
        this(name, 30000);  
    }  
    ...  
}
```

インスタンスへの参照を
格納している変数の名前

Smartphone phone1 =
new Smartphone("ABC", 35000);



name: "ABC"
price: 35000

Smartphone phone2 =
new Smartphone("XYZ");



name: "XYZ"
price: 30000

インスタンスへのアクセス

■ ドット(.)演算子を利用

■ インスタンスの名前.フィールドの名前あるいはメソッドの名前

```
public class Smartphone {  
    private String name;  
    int price;  
  
    public int getPrice() {  
        return price;  
    }  
    ...  
}
```

```
Smartphone phone1 =  
new Smartphone("ABC", 35000);
```



name: "ABC"
price: 35000

```
System.out.println(phone1.price);
```

```
System.out.println(phone1.getPrice());
```

静的メンバ

- staticキーワードを付けて宣言

```
static int x = 10;  
static int abs(int a) { ... }
```

- インスタンスではなく、クラス名を使ってアクセス

- クラス変数

- そのクラスのすべてのインスタンスで共有される

- クラスメソッド

- インスタンスなしで呼び出せる

```
Math.abs(-10);
```

```
public class Hello {  
    public static void main(String[] args) {  
        System.out.println("Hello Java");  
    }  
}
```

main()はクラスメソッド
Hello.classの開始時点は
必ず1つなので

クラスの利用

```
public class Main1 {  
  
    public static void main(String[] args) {  
        Smartphone phone1 = new Smartphone("ABC", 35000);  
        System.out.println("Price = " + phone1.price);  
        System.out.println("Price = " + phone1.getPrice());  
  
        Smartphone phone2 = new Smartphone("XYZ");  
        System.out.println("Price = " + phone2.price);  
        phone2.setPrice(phone2.price + 1000);  
        System.out.println("Price = " + phone2.getPrice());  
    }  
}
```

name: "ABC"
price: 35000



name: "XYZ"
price: 30000



price: 31000

実行結果

```
Price = 35000  
Price = 35000  
Price = 30000  
Price = 31000
```

代入

■ 基本型

- 代入により値が複製

```
int a, b;  
a = 1;  
b = a;  
a = 2;
```

a: 1
b: 1

a: 2
b: 1

■ 参照型

- 代入によりインスタンスへの参照値が複製される = 別名(alias)

```
Smartphone phone = new Smartphone("A", 30000);  
Smartphone alias = phone;  
phone.price = 20000;
```

phone.price: 20000
alias.price: 20000

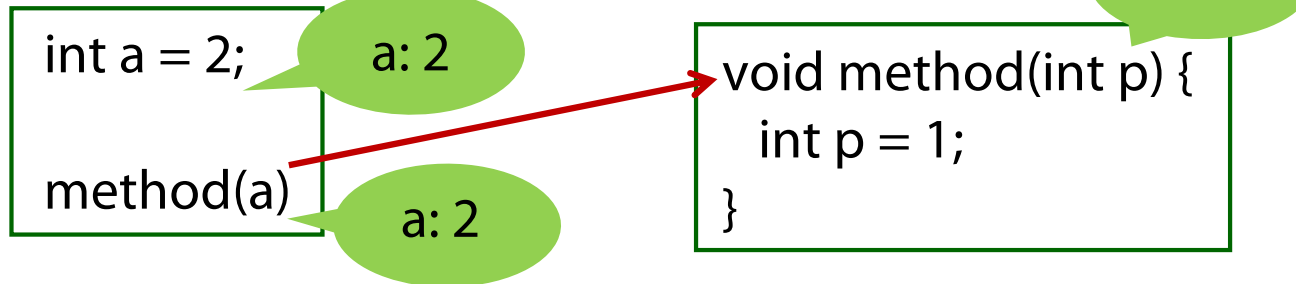
```
Smartphone phone = new Smartphone("A", 30000);  
Smartphone alias = phone;  
alias.price = 20000;
```

phone.price: 20000
alias.price: 20000

引数渡し

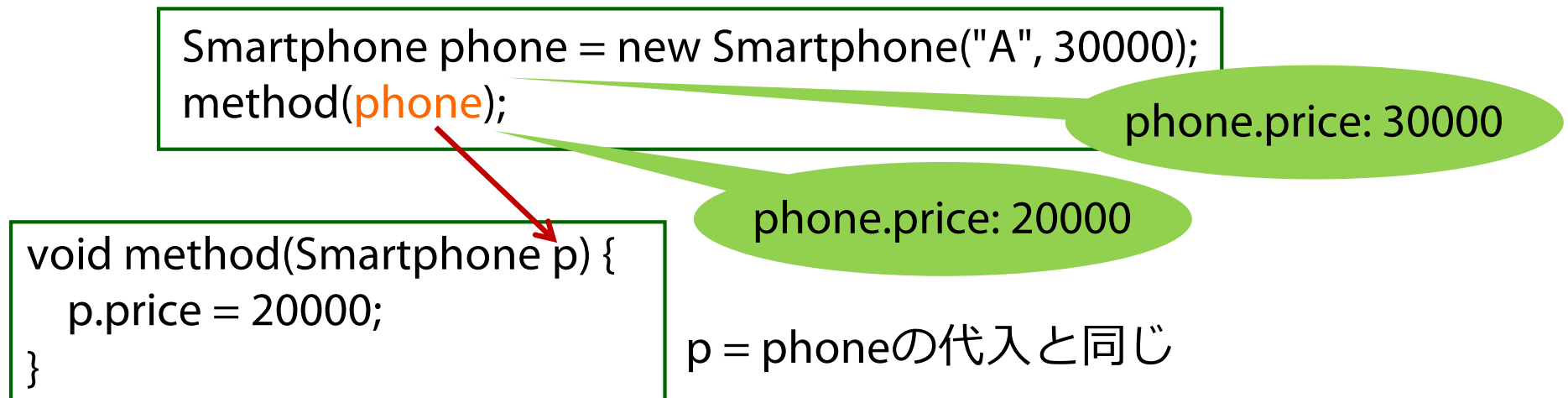
■ 基本型の引数渡し

- 代入により値が複製されて渡される



■ 参照型の引数渡し

- 引数にインスタンスの参照値の複製が渡される(参照渡しではない)



練習問題(Exec1)

```
class Device {  
    private int price;  
    Device(int price) {  
        this.price = price;  
    }  
    Device() {  
        this(10);  
    }  
    void setPrice(int p) {  
        price = p;  
    }  
    int getPrice() {  
        return price;  
    }  
    String getInfo() {  
        return "$" + price;  
    }  
}
```

```
public class Exec1 {  
    public static void main(String[] args) {  
        Device device1 = new Device(25);  
        System.out.println(device1.getPrice()); // (1)  
  
        Device device2 = new Device();  
        System.out.println(device2.getInfo()); // (2)  
        device2.setPrice(15);  
        System.out.println(device2.getInfo()); // (3)  
  
        Device device3 = device1;  
        System.out.println(device3.getInfo()); // (4)  
        device3.setPrice(40);  
        System.out.println(device1.getInfo()); // (5)  
        System.out.println(device3.getInfo()); // (6)  
  
        device3 = device2;  
        System.out.println(device3.getInfo()); // (7)  
    }  
}
```

25

\$10

\$15

\$25

\$40

\$40

\$15

まとめ

- クラスを必ず記述する
- フィールドとメソッドはクラス宣言の中に記述する
- パッケージを使うと、同じ名前のクラスを区別できる
- thisは自インスタンスを指す
- インスタンスを生成する際には、new演算子を使う
- インスタンスにアクセスする際には、ドット演算子を使う
- クラス変数は、そのクラスのすべてのインスタンスで共有される
- クラスメソッドはインスタンスなしで呼び出せる
- 参照型の代入や引数渡しでは、インスタンスの参照値が複製される

次回の講義の最初に小テストを行います